

田端文士村記念館 開館25周年記念展 第2弾



芥川龍之介が王様!?

大正時代の文士村



中野重治



萩原朔太郎



芥川龍之介



室生犀星



堀辰雄

田端に集まる理由がある

2018

5/15 [火] ▶ 9/23 [日]

会場：田端文士村記念館

開館時間：10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月曜日 (祝日の時は火・水曜)・祝日の翌日 (土日の時は翌火曜)

【主催・問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 ☎03-5390-1221

【共催】東京都北区 【協力】北区飛鳥山博物館、(株)金の星社、郡山市こおりやま文学の森資料館、国立科学博物館、宮坂寛

【写真提供】芥川龍之介：国立国会図書館／中野重治：鯉目卯女、林淑美／萩原朔太郎：前橋文学館／堀辰雄：堀辰雄文学記念館／室生犀星：室生犀星記念館



(JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分)
駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

芥川龍之介が王様!? 大正時代の文士村

芥川龍之介、室生犀星などの文士たちが暮らした大正期の田端。2人が『羅生門』『愛の詩集』など日本文学史上に光彩を放つ代表作を発表し文壇に地位を確立すると、友人萩原朔太郎や、堀辰雄、中野重治などの若手作家が集い始めた。若手作家たちは詩の雑誌『驢馬』を発行し、田端から中央文壇へ一石を投じた。室生犀星はその頃を「田端は賑やかな詩のみやこ」になり「王様は芥川龍之介であつた」という。

王様芥川が君臨した田端文士村史上の最盛期である、大正時代に焦点をあてた開館25周年記念展第2弾!



田端の自宅で木登りする芥川「現代日本文学巡礼」フィルムより
写真提供：郡山市こおりやま文学の森資料館



〈写真左から〉
芥川龍之介『羅生門』
(大正6年5月)
室生犀星『愛の詩集』
(大正7年1月)



芥川龍之介 室生犀星宛書簡
(大正14年1月31日)
2人の親交がうかがえる手紙。
文中には堀辰雄(タッチャンコ)の
名も登場する。



室生犀星「田端村」原稿
(大正15年7月26日讀賣新聞掲載)
田端の風物や移り変わりについて、
また、近隣に暮らした北原白秋、萩原
朔太郎のことが書かれている。

田端で生まれた雑誌

『感情』第3号(大正5年8月)



室生犀星、萩原朔太郎らが創刊した詩の雑誌。32冊を刊行し、3号からは田端で発行された。

『驢馬』5月特別号(大正15年5月)



室生犀星の元に集まった中野重治、堀辰雄らが創刊。特別号には犀星、朔太郎、龍之介らも寄稿した。

『女性同盟』創刊号(複製)(大正9年10月)



新婦人協会の機関誌『女性同盟』。事務所のあった平塚らいてうの田端自宅で発行された。

『金の船』第2巻第3号(複製)(大正9年3月)



大正期児童文化の興隆に寄与した雑誌。経営者・斎藤佐次郎の転居に伴い、編集所が(『金の星』に誌名変更後は発行所も)田端に移転した。

無料 河童忌(芥川龍之介忌日) 特別企画 会場/多目的ホール

劇団文化座 朗読劇 「杜子春」ほか

出演：劇団文化座 ゲスト：芥川 耿子、佐々木 愛

浪費家の若者に仙人が幻を通じて、人間の幸せや大切なことを説いた芥川龍之介の作品「杜子春」。劇団文化座の若手精鋭たちによる当館初となる公演! 教科書などで一度は触れたことのある名作を、芥川耿子とともに観劇してみませんか?

7/24 [火] 午前の部 11:00 開演
午後部の部 15:00 開演

※各回内容は同一(定員100名)、開場は30分前

お申し込み要項

往復はがき[7/2(月)必着]でご投函ください。
1通につき2名まで可。

往信用裏面 ①イベント名②希望回③住所④氏名⑤電話番号⑥年齢
返信用表面 応募者の住所・氏名



芥川耿子
(龍之介・令孫)



佐々木愛
(劇団文化座代表)



芥川龍之介 田端の家 復元模型(1/30スケール)

(公財)北区文化振興財団

田端文士村記念館 

〒114-0014 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

http://www.kitabunka.or.jp/tabata/ @bunshimura